

令和3年4月13日

所 属 情報指令課

所属長 大木 康裕

電 話 06-6481-3968

令和2年火災・救急・救助統計について

1 趣旨

市内において、火災予防や救急車の適正利用を促すため、令和2年中に発生した火災、救急、救助に関する概要を広く周知します。

2 対象期間

令和2年1月1日（水）～令和2年12月31日（木）

3 各概要における項目

(1) 火災概要

火災の発生状況、出火件数、焼損床面積及び損害額、火災件数の推移、出火原因、住宅火災の出火原因

(2) 救急概要

過去10年間の救急出動件数の推移、程度別、年齢区分別、事故種別

(3) 救助概要

救助隊配置体制、救助工作車配置体制、出動件数、室内閉じ込め救助件数

4 その他

令和2年火災・救急・救助統計の詳細については別添のとおり

以 上

令和2年火災統計（概要版）

火災の発生状況

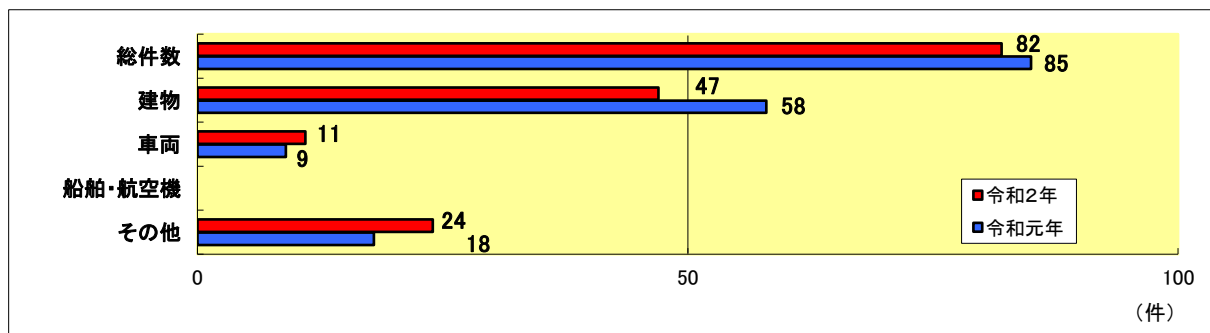
- 令和2年の火災件数は82件で、焼損床面積は1,015㎡、損害額は81,517千円、死者4名、負傷者17名となりました。

令和2年	
件数	82件
焼損床面積	1,015㎡
損害額	81,517千円
死者	4名
負傷者	17名

令和元年	
件数	85件
焼損床面積	1,533㎡
損害額	127,619千円
死者	3名
負傷者	22名

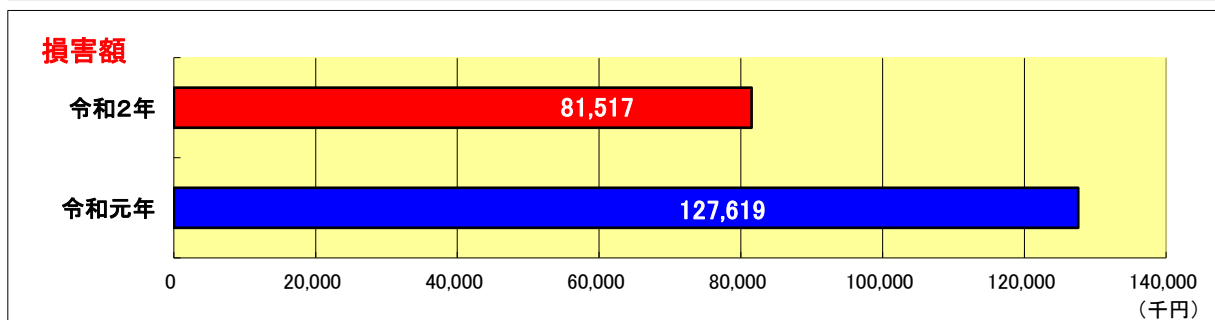
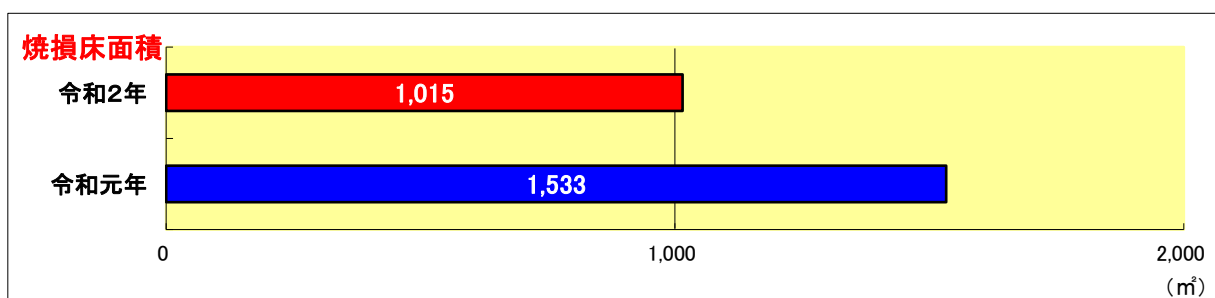
出火件数

- 出火件数は、前年の85件から3件減少し、82件となりました。
- 火災種別ごとでは「建物火災」が47件で11件減少、「車両火災」が11件で2件増加、「船舶火災」、「航空機火災」は共に0件で、「その他火災」が24件で6件増加しました。



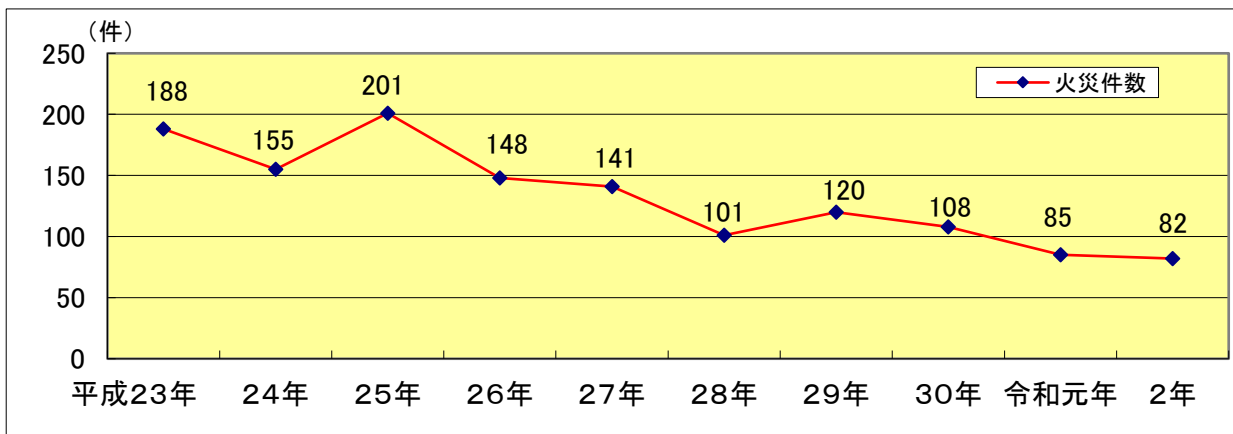
焼損床面積及び損害額

- 焼損床面積は、前年の1,533㎡から518㎡減少の1,015㎡、損害額は前年の127,619千円から46,102千円減少の81,517千円となりました。



火災件数の推移

- 令和2年は82件で、前年より3件の減少となりました。
- 平成23年からの過去10年間の平均は132.9件です。

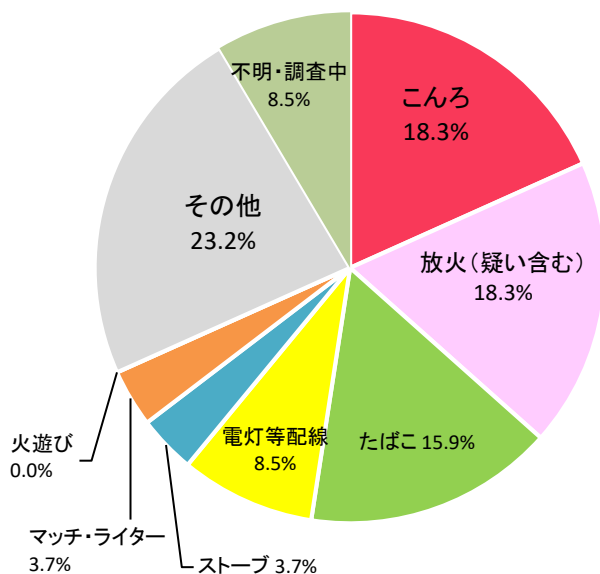


出火原因

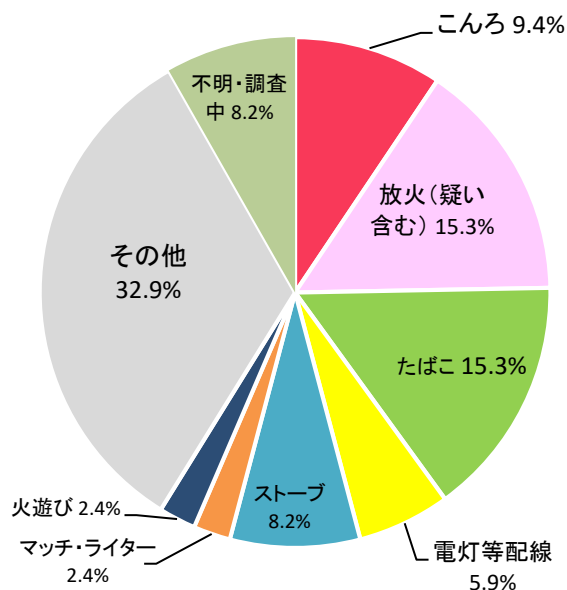
- 主な出火原因をみると、1位は「こんろ」と「放火（疑い含む）」が同数となっています。「こんろ」は15件で7件の増加、「放火（疑い含む）」は15件で2件の増加となっています。3位は「たばこ」で前年と同数となっています。
- 各出火原因の全体に占める割合は、上位から「こんろ」と「放火（疑い含む）」、「たばこ」となり、件数は43件で割合は、52.4%となっています。

区分	令和2年	令和元年
こんろ	15件	8件
放火(疑い含む)	15件	13件
たばこ	13件	13件
電灯等配線	7件	5件
ストーブ	3件	7件
マッチ・ライター	3件	2件
火遊び	0件	2件
その他	19件	28件
不明・調査中	7件	7件
合計	82件	85件

令和2年



令和元年



※四捨五入しており、100%にならない場合があります。

住宅火災の出火原因

- 住宅やアパート・マンションなど住宅火災全体の件数は29件で、前年の30件から1件の減少となっています。
- 令和2年の総火災件数82件に占める住宅火災の割合は、35.4%となっています。
- 住宅火災における出火原因の主なものとして、「こんろ」、「たばこ」、「電灯等配線」となり、その原因の住宅火災全体を占める割合は62.1%となっています。

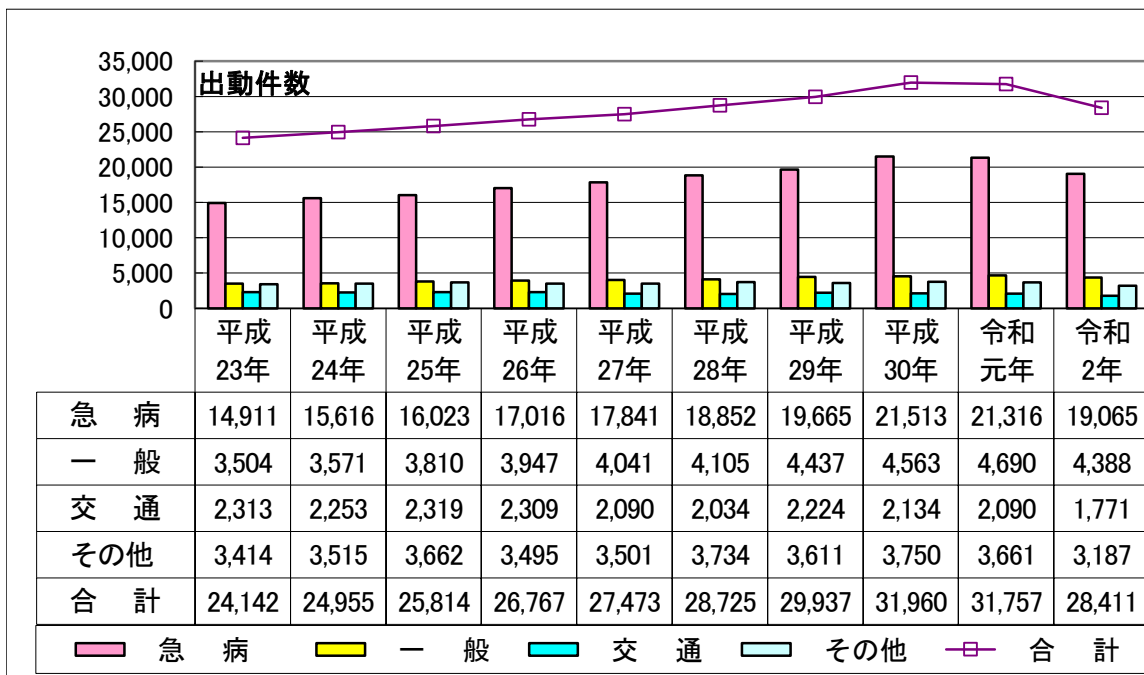
建物別	年別	計	放火（疑い含む）	たばこ	こんろ	火遊び	マッチ・ライター	ストーブ	電灯等配線	その他	不明・調査中
一般住宅	令和2年	10	1	1	1		1	1	1	4	
	令和元年	16	1	6	3			3	1	2	
併用住宅	令和2年										
	令和元年										
共同住宅	令和2年	19	2	3	8				2	1	3
	令和元年	14		2	2			3	2	4	1
合計	令和2年	29	3	4	9		1	1	3	5	3
	令和元年	30	1	8	5			6	3	6	1

令和2年救急概要

令和2年中における救急出動件数は28,411件（前年31,757件）で3,346件（10.5%）の減少となり、搬送人員は24,450人（前年27,701人）で3,251人（11.7%）の減少となっている。1日平均は78件（前年87件）であり、約18分に1件の割合で救急隊が出動したことになります。

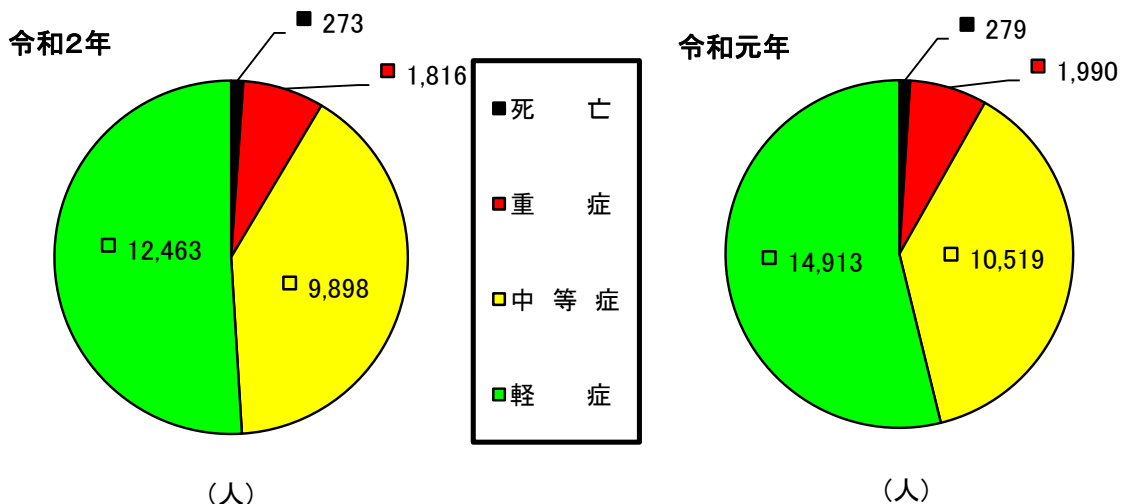
過去10年間の救急出動件数の推移

- 過去10年間の救急出動件数をみると、平成30年まで9年連続で増加していたが、令和元年から2年連続で減少に転じ、昨年より3,346件の減少となります。



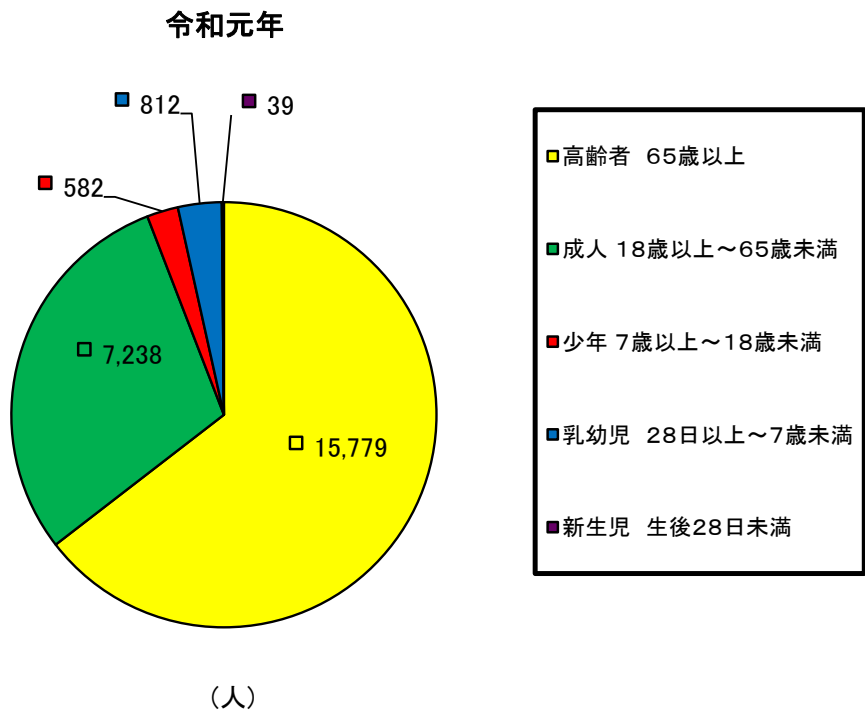
程度別

- 程度別をみると、軽症12,463人（前年14,913人）で2,450人（16.4%）の減少、中等症9,898人（前年10,519人）で621人（5.9%）の減少、重症1,816人（前年1,990人）で174人（8.7%）の減少、死亡273人（前年279人）で6人（2.2%）の減少となります。



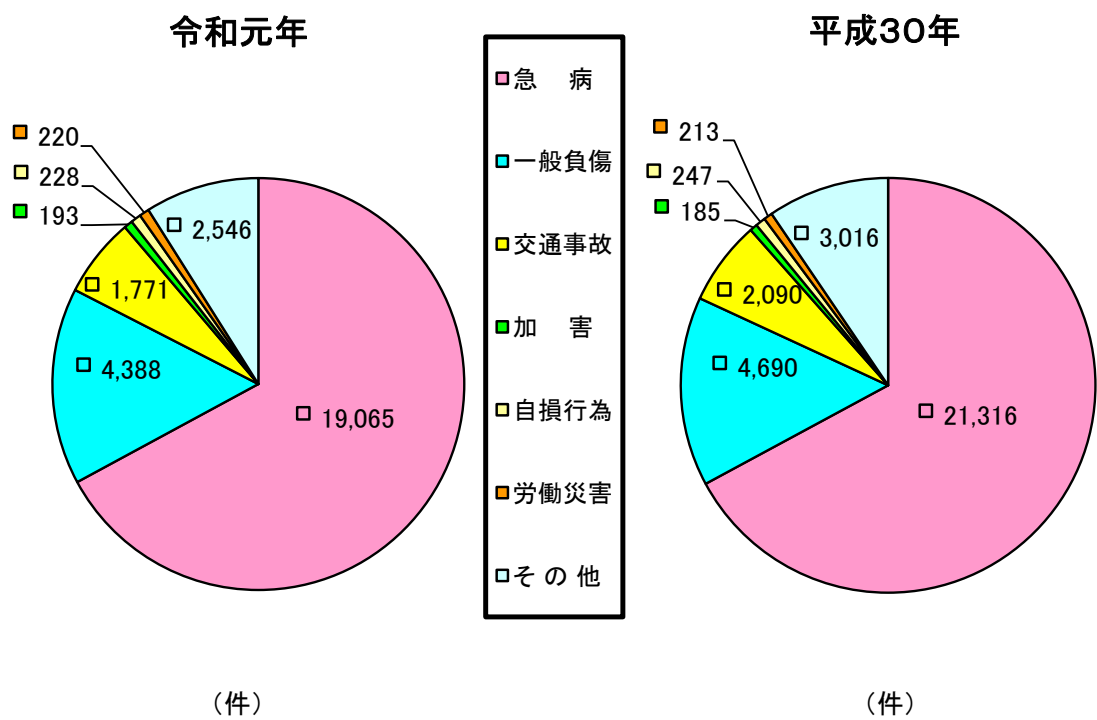
年齢区分別

- 年齢区分別にみると、高齢者が15,779人で最も多く、全体の64.5%で、以下、成人、乳幼児、少年、新生児の順になっています。



事故種別

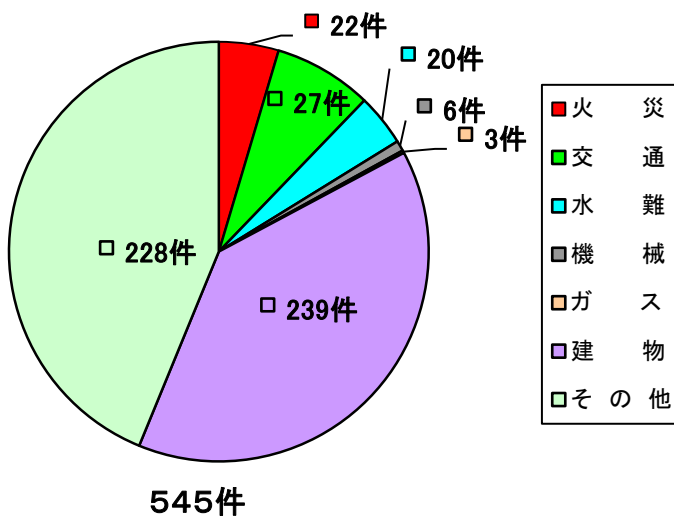
- 事故種別でみると、急病が最も多く全体の67.1%で、以下、一般負傷、交通事故の順になっています。



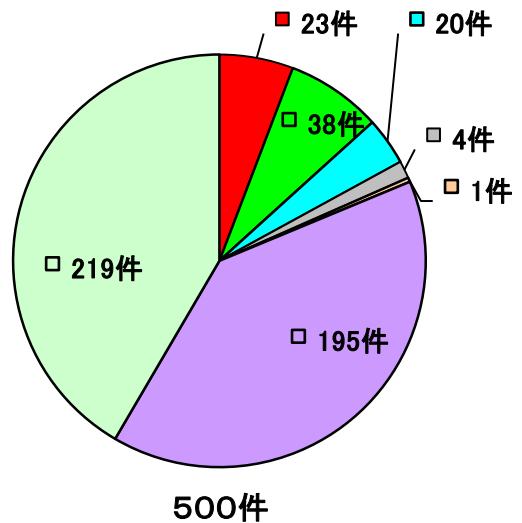
令和2年救助統計(概要版)

- 本市の救助体制は、高度救助隊1隊、特別救助隊1隊、署救助隊2隊、水難救助隊1隊で計5隊の救助隊を配置しています。
- 救助工作車は2台を有し、市域の南部に1台、北部に1台を配置し、あらゆる災害における救助体制の拡充、強化を図っています。
- 令和2年の出動件数は545件（前年500件）で、出動隊数は950隊（前年842隊）となっており、種別ではその他の事故を除き、建物等による事故が最も多くなっています。
- 近年では、室内閉じ込め救助が増加しています。この室内閉じ込め救助とは、何らかの理由により、自力でドアを開けて外に出られなくなった又は室内に人がいると思われるが、安否の確認が出来ない状態のことであり、救助出動件数545件のうち343件(62.9%)がこの室内閉じ込め救助出動となっています。

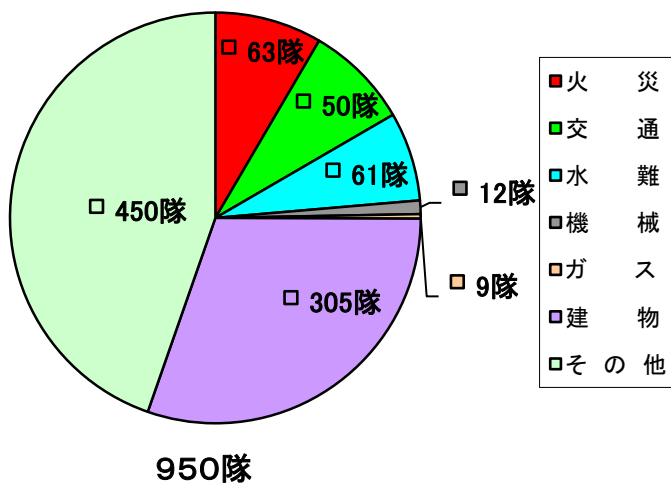
令和2年救助出動件数



令和元年救助出動件数



令和2年救助出動隊数



令和元年救助出動隊数

